

新春懇親会

「春闘」や「働き方改革」で意見交換

定時総会の後、各界から関係者労働省や労働3団体の代表など多を招き新年懇親会を持った。厚生数が出席、「17年春闘」や安倍政権の進める「働き方改革」など政治経済情勢で意見交換した。

労ペンの稲葉代表は同一労働同一賃金、長時間労働の是正など働き方改革に触れ「政策決定に労使の顔、働く人たちの顔が見えてこないのが気になる。『働かせ方改革』にならないよう希望している」とあいさつ。

岡崎淳一厚生労働審議官は「働き方改革が安倍内閣の政策課題の第一に上がっている」とし、昨秋来の議論の進捗状況を説明したうえで、「労使の代表の意見もいただきながら、しっかりと我が国の働き方が変わっていく仕組みをつくっていくことが重要」と述べた。



連合の神津会長は所用のため参加

できず、逢見直人事務局長があいさつ。「今や雇用労働者の4割が非正規と言われている人たち。この雇用形態の違いによる処遇の差が大きくなっている」と述べ、不合理な格差をなくすため、政府レベルの議論だけでなく、集团的労使関係の枠組みの中でルールを作っていくということが重要だとした。



全労連の小田川義和議長は、「働き方改革では（労組が）一致して取り組める要求課題は決して少なくない。17年が、働き方改革が争点の一つだとすれば、どういう対応をするのかが問われる1年になる」と述べ、共同した取り組みを訴えた。続いて全労協の金澤壽議長は「労働者、民衆の現実の政治に対する不満が噴出し様々な形で全世界的な運動になっている。一方の責任があるのだという自覚のもと、この1年頑張っていきたい」と年頭の決意を表明した。